

雑巾の使い方を知っていますか

「先生、このポンプ、壊れています。」

教室の暖房として石油ストーブを使っていた頃、手動のポンプを使って給油しようとした生徒が発した言葉です。数日前まで正常に使えていたポンプだったので、不思議に思ってみてみえました。すると、わかりました！上部のキャップが緩んでいたのです。いくらシュポシュポやっても入らないはずです。

「えっ、そこを締めるの？」

その生徒は、その後喜んでシュポシュポやっていました。それを見て、「そんなに連続でシュポシュポやらなくてもいいんだよ」と、次はポンプの仕組みを教えることとなりました。

マツチが擦れない若者、包丁でリングの皮がむけない若者、缶切りが使えない若者……今では珍しくないようです。生活様式の変化に伴い、若者の生活体験不足が進んでいます。北中の皆さんはどうですか。ポンプ、包丁、マツチ、缶切りは使えますか。さらには、雑巾はどうですか。

「雑巾ぐらい使えるよ」という声が聞こえてきそうです。そうですね。掃除のときには使っていますからね。しかし、全国的には、雑巾が絞れない若者、雑巾のきれいな面を使つての拭き掃除ができない若者が多いとのこと。おにぎりを握るように雑巾を絞る、汚れた面ですつと拭き続ける、こういう使い方をする若者が今心配されているようです。

北中では、当たり前のように雑巾を使っています。短い時間で、テキパキと掃除を進めているので、使い方もばっちりでしょう。雑巾の使い方については、心配どころか、最近は感心しています。

雑巾の掛け方がみごとです。以前気になっていた乱雑な掛け方は、ずいぶん減りました。掛けてある雑巾を私が掛け直すこともずいぶん減りました。素晴らしいことだと思っています。

しかし、一部の雑巾については今も気になります。絞ったしわが入ったまま掛けてあるもの。掛けるスプレーはあるのに他の雑巾と重ねて掛けてあるもの。このような雑巾は、大抵乾いていません。したがって、目には見えない雑菌が雑巾に大量に繁殖していると思われます。その雑巾を再び使えば、自分の手や教室内に雑菌をつけることとなります。がんばって掃除している割には、目に見えないところで菌を増殖させている……そんな状況が気になります。

使えればよいというものではありません。使い方は理にかなっているはずですので、それを理解した上で使うことが大切です。徒然草にあるように、「少しのことにも、先達はあらまほしきことなり」ですね。（二、三年生はわかるよね。一年生は来年度わかりますからね。）

（一月二十八日 記）